



平成10年9月25日の浸水状況▲▶



背景

高知はかつて「河内^{こうち}」と標記されていたそうです。昔から度々水害に見舞われ、人々は水害との闘いを続けてきました。平成10年（1998）9月の秋雨前線により、高知市では24日6時からの日雨量が943mmに達し、市内各所で家屋が浸水しました。高知は激しい雨と河川の越流で「河内」になってしまいました。この話は、平成10年高知水害を体験した障害者の方の体験談をもとにしたものです。

アクセス 高知平野を一望できる五台山

- JR高知駅より南東へ直線距離約4km
- 高知市吸江
- 緯度経度 北緯33度32分53秒，東経133度34分23秒



傘を突き抜けると思うほど猛烈な雨、時間雨量一二九・五ミリが降った平成一〇年（一九九八）高知水害。この話は、平成一〇年（一九九八）の高知水害を体験した障害者の方の体験談をもとにしたものです。「裏山からは石がゴロゴロ崩れ始め、もう私たちは覚悟を決めました」と話すのは高知に住むAさんです。Aさんの夫は約一〇年前、脳卒中で倒れ、自宅で寝たきりの生活でした。水害時、地域には避難勧告が出され、近所の人も何度か「早く避難して下さい」といって戸を叩きに來たと言います。しかし、「こんな豪雨の中、避難なんてできやせん」と言って断りました。「裏山が崩れ、この家が押し潰されたら二人でここで死のう」と覚悟を決めたそうです。

在宅寝たきり障害者の方の中には、避難勧告が出された時、地域の人の介助で避難所までたどり着くことができた人もいます。しかし、トイレのこと、自分で姿勢を保つことなどが自由にできないBさんは、避難所に居ることもできず、幸いに市役所の仲介で病院に入院することができようやく落ち着いたといいます。一方、すみやかに特別養護老人ホームへ臨時入所させてもらいホッとしたCさんもありました。

